

■若手に読んでもらいたい本

白杵有光のおすすめ
(株)豊田中央研究所

分 野：一般書
書籍名：ナイロンの発見
著者名：井本 稔
出版社：東京化学同人
出版年：1971年
価 格：580円 (当時)

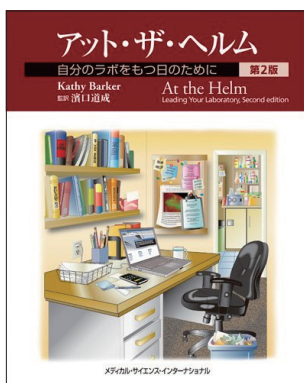
私の参考となった本を紹介します。
高分子を当たり前で使用している現代人にとって、その開発の裏に隠れた逸話はあまり知られていない。本書はナイロンを発明したデュボン社のカロザスの伝記風物語であり、彼の短い研究者生涯が1914年10月から1937年4月までの日記として記述されている。ご存知の方は多いと思うが、カロザスはナイロンが実用化される一年前に自ら命を絶った。本書は単なる読み物ではなくて、化学式などが記述されていて勉強になるし、企業研究の進め方も詳しく書かれていて大変興味深い。会社の中で工業化、製品化に向けて話が拡張していくことの心配、会社から新しい研究成果を求められる苦悩なども書かれており、研究者にとってのバイブルのような本だと思う。とくに企業に入社された若い方にこのような本を読んでいただき、自ら道を切り開いていくパイオニア精神と基礎研究から完成した技術を製品に作り上げていくエンジニア

精神を感じていただくと研究者人生に何かヒントがあるかもしれません。

私自身も35年間企業での研究現場に所属し、いろいろな研究フェーズを体験してきました。その中で最も醍醐味を味わうのは自分たちで開発した材料、製品が大勢の人の協力のもとで世の中に出ていくときだと思います。誰でも体験できるわけではありませんが、少しでも若いうちにそのような成功体験ができることが、企業研究者には重要だと考えています。高分子学会のネットワークを通じて少しでもそのような機会が増えることを願っています。



■若手に読んでもらいたい本

瀧 健太郎のおすすめ
金沢大学理工研究域自然システム系 准教授

分 野：一般書
書籍名：アット・ザ・ヘルム
自分のラボをもつ日のために
第2版
著者名：キャシー バーカー
出版社：メディカル・サイエンス・
インターナショナル
出版年：2011年
価 格：4,800円 (税別)

私が助手に採用されたころに、ふと大学の生協で手にした一冊の本を紹介させていただきます。その本は、アット・ザ・ヘルム—自分のラボをもつ日のために—です。ヘルムとは舵を取るという意味のようで、まさに、ラボ(研究室)という船のかじ取りをするための指南書です。

博士号を取得してポスドク、特任助教、助教などのアカデミックなポジションに採用されたら、将来は自分のラボ(研究室)を主宰したいと誰しも夢を描くことと思います。そして自分の研究室をみんなが憧れるいい研究室にしたいと希望を膨らませると思います。この本では、研究室を主宰する人のことをPI (Principal Investigator) と呼んでいますが、PIというリーダーが研究室のカルチャーをいかにして醸成していくか、ゼロから研究室をスタートさせるための指針が、科学者の体験談をもとに人間臭く示されています。

最近、私は(たぶん)PIになりました。

この本の初版は後輩にあげてしまい、すっかり忘れていましたが、本稿の執筆依頼を頂きそのころのことを思い出しました。そこで第2版を取り寄せて中身を

読んでみると、私は10年間の研究者人生をこの本に書かれていた指針にほぼ従って生きてこれたのだと実感しました。

人生に万能な指南書などありはしませんが、日本の若手研究者の立場は今後ますます厳しさを増すと思います。高波や濃霧の中でも船を目的地まで導くことができる海図を手にとられてみてはいかがでしょうか。

